園長と語ろう

― 卒園児たち… ―

園長　家田　美里

昨年のお正月に元職員の先生より「卒園児の○くんが箱根駅伝を走ります」と連絡がありました。箱根駅伝と言えば、駅伝にあまり興味のない私でも知っています。その箱根駅伝に1回生で出場すると聞き、初めて1つの大学をしっかりと応援しました。結果はシード権獲得で又、次回も応援できることが決まりました。そして今年のお正月。メンバーに選ばれているかなと思っていたところへ、今年も連絡が入りました。「5区を走ります。当日の朝に決まりました」と。5区と言えば山登りです。すぐに添乗員の長谷場さんへ連絡を入れました。しかし私達は、○くんの小学校、中学校、高校の姿を知らず、幼稚園の年長（6歳）で止まっています。「あのドキドキしいの○ちゃん（当時の呼び名）が当日の朝に走ると言われたなんて大丈夫？涙が出てない？」とか「とても優しく大人しかった○ちゃん。山登りなんて登りきれるのだろうか？」とそんな心配ばかりでした。2回生で2年連続メンバーに選ばれているのだから、実力はあり信頼されているのでしょうが幼い頃を知っている大人はダメですね。応援どころではなく心配ばかりで終わった後はレースの結果よりも「無事に登りきってほっとした」と全員母親の感想でした。チームの成績はと言いますと来年は予選会からの参加になりましたが又本大会に帰ってくることを楽しみにしています。

他の卒園児も「甲子園に出ます」とか「ラグビーで全国大会に出ます」などの活躍を聞きます。そんな子ども達はほんの一握りですが予選のメンバー表や作品などが新聞に出ているといつも卒園児の名前を探してしまいます。

むらさき幼稚園の卒園児は園に遊びに来てくれる子がたくさんいます。「就職が決まりました」や「大学で京都を離れるのでその前に来た」など、節目でむらさき幼稚園を思い出してくれる事が嬉しいです。その時に見せてくれる輝いた笑顔は最高です。この夏1人の卒園児が時間のない中、園に遊びに来てくれました。△くんは自分のやりたい事が見つかり、それに向けて大学の進学が決まったという報告でした。「むらさきで自由にさせてもらった事が自分の中でとても大きかった。小学校は窮屈に感じとてもしんどかった。爆発しそうになったタイミングで海外へ行く事になり、そこで開放された。言葉は何もわからなかったけど自分で考え行動ができた為、のびのびと過ごせて今のやりたい事を見つけられた。むらさきのおかげです」と伝えてくれました。幼稚園にとっては最高の褒め言葉です。確かに幼稚園での△くんは、本当に毎日が新しい発見で〝おもしろい〟を見つけ周りを巻き込んで遊んでいました。しかし△くんからしんどかった時期もあったと聞き、現にしんどい思いをしている卒園児もいると言う話も聞いているなと思いました。今、小学校に行けてないですや中学校を休んでいます…。そんな子ども達には今は辛いけど、必ず乗り越えられると伝えています。私は何もしてあげる事はできませんが、1人1人乗り越える力を持っていますので、その力を信じています。

ここ数年では、卒園児が保護者になってむらさきに帰ってきてくれています。おじいちゃん、おばあちゃんお招き会では、以前保護者だった方々が久しぶりに会い、プチ同窓会になりとても賑やかです。今も昔も大人が子ども達を守り、子ども達がそれに応えて「むらさき」という大家族の中でのびのびと成長してくれています。

今回は卒園児の話を書かせてもらいました。子ども達には無限の可能性があります。「朝、幼稚園に行く準備がなかなかできない」「好き嫌いが多い」など今、直してほしい事を大目に見てくださいとは言いません。生活習慣を身につける事はとても大事です。本人のペースでできるようになると、自信になり力になります。大人になるまでに自分で考え決めなければならないときは何度もあります。その度によく考え結果を出すことで子ども達もしっかり決める事ができます。子どもの将来を楽しみに今を精一杯応援していきましょう。余談ですが、私がむらさきに来る前の事です。お母さんからの依頼で「探偵ナイトスクープ」に卒園児とお母さんが出演されたそうですよ。